

佳作

笑顔をありがとう

わたしの家は六人家族です。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして、わたしと弟、六人全員そろっているのがあたりまえでした。しかし、今年の二月にお母さんの具合が悪くなりました。わたしは去っていく救急車をつめながらぼうぜんと立ちつくしました。昨日まで、あんなに元気だったお母さんが入院するなんてとおどろき、これからのことが心配でたまりませんでした。

お母さんがいない生活は、とてもさみしく、わたしより五さい年下の弟はいつも元気がない顔をしていました。でも、さみしさを口に出さずにがんばっている弟を見て、姉のわたしがしつかりしないと感ぜました。また、おばあちゃんは一生けん命ご飯を作ったり、洗たくをしたりとわたしたちの身の回りのお世話をしてくれました。おじいちゃんは弟のようち園のおむかえをしてくれました。お父さんは仕事の合間にお母さんを見舞い、わたしたちにお母さんの様子を聞かせてくれました。仕事はいそがしいけれど、ときどき早く帰ってきてくれてわたしと弟が少しでもさみしくないようにしてくれました。弟は小さいながらも、おふろのときに一人で頭や体を洗ったり、次の日に着る服を用意したりと、自分で考えながらできることをやっていました。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、そして弟がそれぞれ

茨城県

常陸太田市立金砂郷小学校 六年

小磯 日菜

に協力し合っている姿を見て、わたしも自分ができるとかと思えました。わたしにできることは、弟のためにお母さんのかわりになつてあげることだと思えました。弟によるち園での出来事を聞いてあげたり、遊び相手をしてあげたり、ねる前に絵本を読んであげたりしました。弟が悲しい顔でいるよりも笑顔でいた方がうれしかったからです。

お母さんの入院を通して、ふだん当たり前に過ぎていく日々の生活が一人でも欠けると大きく変わってしまうことを知りました。おじいちゃんとおばあちゃんがわたしたちを気づかせてくれたことで、お母さんがいない生活の不安がなくなりました。おじいちゃん、おばあちゃんありがとう。いつも明るく楽しいお父さんがいたから、わたしも弟も笑顔でいることができました。お父さんありがとう。弟がさみしくないようにとそばにいてあげたつもりでも、本当は弟がそばにいてくれたからわたしがさみしくなかつたと思います。りゅうくんありがとう。

お母さんの「おはよう」で始まる一日がわたしは一番好きです。わたしの中でお母さんの存在がどんなに大きいか、お母さんが入院したことで気付きました。お母さん、体に無理をしないでこれからも家族のために笑顔でいてください。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして弟、いつも明るい笑顔をありがとう。